

活動成果報告書

令和元年度（第23回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

精神障害者が地域で自立した生活を送るための支援
～入院患者の地域移行推進を中心に～

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)
愛知県知多障害保健福祉圏域会議精神保健福祉部会
代表者：杉原 孝子

勤務先：愛知県知多保健所

所 属：健康支援課

所在地：〒478-0001

愛知県知多市八幡字荒古後88-2

TEL：0562-32-6211

FAX：0562-33-7299



◇活動方針

愛知県知多障害保健福祉圏域会議では、精神障害のある方が地域で自立した生活を送るための受け皿となる環境整備を目標として、県保健所、県福祉相談センター、障害者相談支援センター、精神科病院等をメンバーとして、平成29年度に精神保健福祉部会を設置し、管内各市町が障害福祉計画に掲げる目標達成に向けて、課題の共有や解決に向けた検討と実践などを行っている。

また、関係機関の連携構築も視野に研修会を企画・実施し、新たな知識や情報の習得、資質向上などの人材育成にも尽力している。

さらに、精神科病院入院患者が退院することへの不安を払拭するために、理解しやすい地域移行のリーフレットを作成し、保健師の見守りやサービス提供者の支援とともに、当事者が地域での生活に前向きになれることを目標に更なる普及啓発に重点を置いて活動している。

◇活動内容とその成果

(活動内容)

愛知県知多圏域障害保健福祉圏域会議では、県が進めるピアサポーター活動を積極的に取り入れ、精神科病院へ出向いて当事者支援について話し合う場を設けている。また、行政だけでなく、支援者も含めた関係者が一堂に会して研修を行うなど、活動の幅を広げている。

精神障害者の地域移行では、特に長期の入院生活に馴染んでしまっている当事者にとっては、退院後の生活のイメージがわからないようであるため、具体的な生活のパターンや利用できるサービスを図や写真等を使って例示した独自の地域移行のリーフレットを作成・配布することとした。このリーフレットを活用し対象者が少しでも退院することへの不安を減らし、やってみようという意欲を持って

活動成果報告書

もらえるよう働きかけている。

(これまでの活動)

○精神障害者の地域移行リーフレット

- ・平成 28 年度に愛知県知多圏域障害保健福祉圏域会議精神保健福祉部会の前身となる“精神保健福祉意見交換会”において、今回改正を検討しているリーフレット「手紙」を作成した。

○ピアサポーター活動を取入れた支援

圏域内の精神科病院の協力を得て、愛知県で養成したピアサポーターや相談支援センターの相談員を派遣し、経験談を話してもらったり、意見交換など積極的にアプローチしている。

- ・平成 29 年度・・・圏域内 4 病院中 3 病院で延べ 3 回実施。総参加者数約 65 名。
- ・平成 30 年度・・・圏域内 2 病院で延べ 4 回実施。総参加者数約 65 名。
- ・令和元年度・・・圏域内 4 病院で延べ 6 回実施。

○研修会・精神保健福祉部会の開催

- ・平成 30 年度は、関係機関の職員・支援者を対象にした研修会 2 回を含め、年 4 回部会を開催した。
- ・令和元年度は、関係職員による部会を 3 回開催。また、病院の多職種スタッフに地域移行を知ってもらうための出前研修を 2 病院にて実施、また各市町の状況に応じた支援を 2 市において実施。

(活動成果)

ピアサポーターとして活動している方々は地域移行の体験者でもあり、この方々が病院へ出向きリーフレットを利用しながら話をすることで、少数ではあるが地域生活を始めたり、退院を口にするものがなかった当事者が自立したいと思うようになったりしている。

医療機関においても先のリーフレットを活用し退院に向けた支援に活用するなど、入院患者の地域生活に向けた動きがみられるようになった。また、地域移行のノウハウを持たない支援者も研修や事例による経験を積むことで理解が深まり、スムーズに手続きができるようになりつつある。

入院が 1 年以上になってくると、本人からは地域での生活を再開する事の自信を無くしていくことが多々ある。ある精神障害のある方は「病気そのものよりも自信を無くすことで出来なくなることが多くあります」という意見があった。そのためにも入院中から地域の相談支援専門員が、退院後の地域生活の準備を一緒に行う地域移行支援が効果的と考えられる。

その時に、福祉サービスやピアサポーターの説明など、リーフレットを活用して説明するとわかりやすく伝えることができるとともに、同じ精神障害のあるピアサポーターとの関わりの中で、「自分だけではない」「病気や障害を理解しあえる仲間がいる」「自分もピアサポーターとして人の役に立ちたい」など自信回復につながったことがこれまでも数々見られた。

活動成果報告書

◇今後の計画

今回、内容の更新を考えている配布用リーフレットは、厚生労働省が進める精神障害者の地域行・地域定着事業の一環で日本精神保健福祉士協会が開催した厚生労働省研究事業の研修会でも好事例として取り上げられているものである。

知多圏域は障害者の自立支援に積極的な地域である一方、どの地域でも言われている社会資源の不足の例に漏れない地域でもある。

当リーフレットの内容について、地域医療機関の医師より「退院ありきではなく、調子が悪ければ通院・再入院など医療機関とも繋がり続けながら、といったことも盛り込むべきではないか。」との意見をいただいたこともあり、改訂版もしくは補填版を作成する予定。当事者だけではなく、身近で支援する家族等の理解も深め、受入れしやすい気運づくりにも役立つものになることを念頭に改訂版を作成したい。

今後もこれまで実施してきたピアサポーター活動を継続しながらリーフレットを活用し、退院することで病院と切り離されてしまうのではないかと、サービス利用の知識がなく不安に駆られているといった当事者に、常に支援があり、孤立する不安を解消してもらえるものとし、一人でも多くの方が地域で自分らしく生活できるようにしていきたい。

「リーフレット 手紙」

